

茨木城跡、川端康成文学館他(現地学習)

参加者 : 生徒21名、CA2名、ボランティアガイドさん2名
日時 : 2026年9月18日13時～14時半 場所: 茨木市内各所

午前中は「戦国時代の城館と守護細川氏」について座学で学び、午後にボランティアガイドさんの詳しい説明を聞きながら、茨木城の跡や川端康成文学館などを訪れました。茨木城は、戦国時代は中川氏が城主、その後豊臣氏直轄、片桐氏城主となりましたが、徳川時代に一国一城令で廃城となってしまいます。その後、跡地は町として発展を遂げたため、残された貴重な痕跡を巡りその面影を偲びました。

茨木神社・天石門別(あまのいわとわけ)神社



本宮には素戔鳴尊・春日大神・八幡大神が、奥宮には天手力男命・天宇受売命が祀られています

東門は、廃城の折に茨木城から移築された搦手門と伝えられています

黒井の清水



豊臣秀吉などが好んでお茶会にこの水を使ったと言われています

茨木城櫓門(復元)



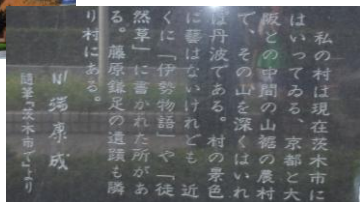
寂光院に移築された茨木城櫓門を茨木小学校正門として復元しました

梅林寺



茨木城主だった中川清秀公と繋がり強くお墓があります

川端康成文学館



※写真は一部パンフレットから抜粋

日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成は、3～18歳まで茨木で過ごしました。旧制茨木中学校時代の写真や自筆の資料、再現された書斎などが展示されています

普段暮らしている身近な市街地にも、いろいろな歴史の痕跡がひっそりとあるものですね。日々の研究で積み上げられた歴史の話を聞いたり、身近にある史跡に触れたりすることで、北摂の歴史の深みと面白味が増していくのが感じられます。